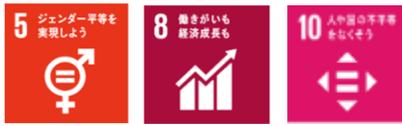


普及現地情報



発信年月日：令和5年(2023年)2月2日
所属名：東近江農産普及課東部
番号：D22018
部門分類：550(生活)
発信者名：伊吹、岡田、濱谷、元麿

働きやすい農業経営体づくりに向け研修会を開催

令和5年1月19日、雇用導入に関心のある経営主を対象に働きやすい農業経営体の条件や実践事例について紹介する研修会を開催しました。生産者12名と関係機関11名が参加し、研修会後のアンケートでは参加した生産者の8割が「職場環境づくりへの意識が高まった」と回答されました。

農業生産現場における担い手の減少や高齢化が進む中、地域農業を維持するためには年齢や性別、国籍等を問わず多様な人材を呼び込むことが重要になっています。また、新規就農者では年々雇用就農の割合が高まっており、雇用就農者が定着し将来の担い手として成長できる環境づくりが求められています。

そこで、多様な人材が働きやすい農業経営体づくりに向けた動機付けとする研修会を企画し、当課と東近江地域農業センター担い手部会の共催で実施しました。講師は、農林水産省の事業により働きやすい農業経営のためのハンドブック策定に携わった株式会社マイファームの小野氏、および補助事業を活用し従業員のための環境整備に取り組んだ愛知県の株式会社ほほえみ農園の太田氏に依頼しました。

小野氏からはハンドブックの内容を参考に一旦立ち止まって自身の経営の問題、課題を点検し解決策を考えてみることで、太田氏からは実際に自身の経営で直面した問題とその原因をどのように探り改善に取り組んでいるかありのままお話いただきました。参加者は関心高く聞いている様子で、事後アンケートでは生産者の8割が「職場環境づくりへの意識が高まった」と回答され、「新しい気づきや自分の経営体に取り入れたいと思うことがあった」との回答が多く、ねらい通りの効果が得られました。また、雇用導入や環境整備に向け必要な知識や支援に関する質問では、7割の生産者が「資金面での支援」と回答されました。

当課は今回のアンケートで得られた結果を管内の関係機関と共有し、経営主やそこで働く従業員の雇用・定着の促進に向けた支援につなげていきたいと思っております。



当日の様子と資料として活用したハンドブック